

講社教祖に捧げる祭文

御存命の教祖に慎んで申し上げます。この四月十八日は二百回目の御誕生日まことにお芽出度うございます。思えば教祖は人間創造の母胎としての魂のいんねんの上から全人類を可愛い我が子と思し召され。四十一才より九十才に至るまで実に五十年に亘る長い年月。月日のやしろとなつて。この世治める眞実の道。を明かされ。人生航路の羅針盤をお与え下された許りでなく。ひながたの親となつて如何なる厳しい苦勞の中も。自ら歩んで陽氣ぐらしの出来る通り方をお示し下さいました。更には私達子供の成人をひたすら望まれ。二十五年の御寿命を縮められ。やしろの扉を開き。肉体の拘束を越えて。末代かけての世界救けに門出されました。ところが私達はついつい我が身我が家の思案が先立ち。世界並同様の日常生活となり。教祖が遠くなつて。折角お引き寄せ頂いたご期待に添いかねている申し訳なさを今更の如く痛感致しております。

改めて「ひながたの道より道無いで」と仰せ下されたお言葉を心に体し。日々かしまのかりものの感謝を深めなつてくる一切を喜べる境地を学び。何時でも何処でもひのきしんの実践に励み。成程の人となつて地域社会に神名が流れ。教祖がお待ち下さるおぢばへ。周囲の人々を次々にご案内させて頂けるよう眞実の限りを傾けて参ります。どうか教祖。かく誓う私達を心ゆくまでお導き下さいますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます。